（六）競技の嗜み

郊外まで出遊するのは、勿論男子であるが、女子は又室内に在つて、いろ〳〵の競技に耽つた。それは先づ歌合●繪合から、扇合●雙紙合●撫子合●菖蒲の根合などをして、寄り合ては其の巧拙や意匠の深淺を競うて樂しむ。唯に歌の秀でたり繪のすぐれたなどといふばかりでなく、歌を書く紙の重ねの色や、扇●雙紙などなら、それらを載せる臺、即ち洲濱（すはま）といふ器具にまで、種々趣向を施し、意匠の眼を盡すのである。中にも薫物合（たきものあはせ）などになつては、薫香藥の配劑調合の如何によつて、其の香をりの優劣を競ふのだが、目で見たり耳で聞いたりする外に、趣味が鼻にまで及んでゐるとは、何と進んだものではないが。まだ〳〵此樣の類は幾らもあるが、餘り長くなるから、此の位で止めて置かう。

要するに、平安朝貴族の男女は、如上のたしなみ色々の素養があつて、趣味を解し風雅の心に富んでゐた。今の流行語でいふと、全く趣味に生きてゐた人達であらう。

Wise and Otherwise.

Friend (to professor, whose lecture, "How to Stop the war," has just concluded): "Congratulate you, old man-went splendidly. at one time I was rather anxious for you." Professor: "Thanks, but I don't know why you should have been concerned for me."

Friend: "Well, a rumor did go round the room that the war would be over before your lecture."

(Punch.)

倭繪（ヤマトエ）につきて

下村三四吉

本誌編輯の係の方から繪畫に關係した寄稿を願ひたいとの依頼があつたが、私は美術上の事には極めて不案内であるから、別に思はしい題目もない。但、近來我が國の繪畫界に古畫の描法を活用する傾向が段々現はれて、倭繪や南畫中などの手法を攝取消化した優秀な作品も出來るやうになつたのに因んで、こゝには倭繪を歴史上から見て、その起原●發達●特質及び沿革の概略について記して見たいと思ふ。然し、特に研究をしたといふほどの事もないから、固より精細を悉すこともできず、また何等の創見●新説もなく、たゞ斯道先覺の所説の一斑を紹介するに過ぎぬ。我が國の繪畫の沿革を知る上に幾分にても參考となるならば仕合である。

（一）唐風の日本化

推古時代以後、我が國藝術の目覺しい發達は、主として支那藝術の感化によるので、多くは其模倣に過ぎなかつた事は、今更ことゞ〳〵しく述べる必要もない。たゞ藝術のみに止まらず、一體に支那文化の模倣は、平安時代の初期までは絶えず行はれた。然るに、遣唐史廢止以後に及んでは、文化の趨向も追々と變化する氣運を生じた。即ち、從來唐朝から盛んに輸入せられた諸般の事物は次第に我が國人に咀嚼消化せられ、彼れの模倣のみに甘んぜずして、一種の國風を化成し獨造の發展を遂げるやうになつたのである。奈良時代の